



立花大敬さんの言の葉 ここのは

2017年7月
言の葉～巻目

立花大敬さん「しあわせ通信」
のお話を紹介していきます

人生飛行術

ロバート・A・モンローという方の、『究極の旅』（日本教文社）という書物を最近読みました。

この方は、アメリカでも成功した実業家で、なんでも、放送局など多くの企業のオーナーとのことですが、彼は四十歳を過ぎて、突然、体外離脱するようになります（スウェーデンボルグの場合とよく似ているようです）。

そして、体外で、いろんな場所を訪ねたりして実験研究していますが、そのうちでも興味深いのは、地球圏外へと脱出して、そこで地球的な意味での肉体を持たない、別次元の知的生命体に出会って、彼の案内で、さまざまな次元世界を旅行するものです。

その時、モンローは、その知的生命体から、目標地点までジャンプする方法、つまり瞬間的に移動する方法を教えてもらっています。

その知的生命体は、モンローに次のように言います。

『心をそこに向かって伸ばすんだ。そして、ココロを離れば、向こうへ行ける』

これは、UFOの飛行法として、宇宙人バシヤールが、ダリル・アンカを通して語っているのと、同じ方法だというのが面白いと思います。

バシヤールによりますと、UFOは地球のロケットのような推進力で移動するのではなく、まず、目ざすポイントの、座標を設定するのです。

それから、現在、UFOがいる地点のまわりに、どの次元の座標軸にも所属しない、ゼロ空間、無の空間を形成して、UFOを、現在の座標から、ひきはがします。そうしますと、あとはもう、おのづから、目標の地点に到着しているというわけです。

それは、こんなたとえでよく分かると思うのですが、まず、目標の座標を設定するというのは、現在の一点から、その目標の地点まで、ゴムひもをひき伸ばして、そのひも的一端をその目標点に固定するような行為なのです。

そして、今度は、現在の座標からUFOをひきはがしますと、UFOは、そのゴムひもの弾力性によって、おのづと目標地点に引き寄せられることとなります。

このゴムひもにたとえられているものが、心というわけですが、心とはまことに不思議なものだと思います。UFOも、モンローが出会った別次元の知的生命体も、やはり心を用いて、瞬時の移動を実現しているのです。

こんな風に書きますと、何か未来のおとぎ話というか、空想世界の話のように思われるかも知れませんが、実は、現在の地球人の中にも、そんな飛行法を上手に活用しておられる方がいらっしやいます。

私も、あまり優秀なパイロットとはいえませんが、そんな飛行法の実践者です。

私の例でいいますと、私は、まず未来の一点に座標ポイントを設定していて、それは、へ良い教師」という座標です。

この座標設定は、結構しっかり出来上がっているようで、私は、もう、心のゴムひもの方で、おのづとその一点に向かって運ばれつつあるようです。これは、現在の状況や、私の心境とは、まったく関係ないようで、一度目標点の設定がしっかり完了してしまえば、自動的にそれが実現するように、自分も改造され、周囲も配置されるという風になっているようなのが面白いと思います。

ですから、その座標の一点をしっかりと設定することが重要で、実はそのための大切なコツがあるのです。

それは、その一点における、自分の様子、周囲の様子を、しっかりイメージ化することで、私の場合でいいますと、私がへ良い教師」である時の授業の様子。私が輝くばかりの笑顔で生徒に接している光景。生徒たちが生き活きと、喜びとともに学んでいる様子。教室の全員がひとつになって、脳も共有化してしまっていて、ここまでくれば、教えるも教わるもなくなっていて、教師のもっている知識がそのまま生徒のものになっている、そんなイメージが描ければいいのです。そうしますと、その目標の一点に、しっかりゴムひもが固定されます。

さて、これで半分が済みましたが、残る半分が意外に困難なのです。

ゴムひもが、目標点に固定されても、今の座標点から、あなたが離脱しなければ、決して目標地点まで行けません。

ところが、現在の一点からどうしても踏み出せない人がいるのです。

そんな状況を自己限定といいます。

つまり、自分というものは、こんな人間で、これが限界で、これ以上の事は出来るはずがないのだと、意識的、あるいは無意識的に思いこんでいる場合があって、自分で、時間、空間の小さなワクを形成してしまっていますから、その外へジャンプできないのです。

そんな思いこみからぜひ超脱して欲しいと思います。

そんな人は、結局、世界は重いものなんだと観ているのです。それはまちがいで、実際、世界は実に軽いものなのです。

紙きれ一枚ほどのもの、吹けばとぶほどのものだと思えばいいのです。

そんな紙片一枚を、パタパタパタと折り込んで、ほら、今の宇宙全体ができました。そして、次の瞬間には、パツと、まっさらの白紙一枚にもどっています。また次の瞬間には、パタパタとたたみこんで、次の、前のと少し違う次なる宇宙ができるのです。そんなことの繰り返しで、世界、宇宙は成立しています。

私たち個人も、また私たちの周囲の環境も、そんな折り紙細工にすぎなくて、いつでも、クリヤーして、もとの白紙にもどれますし、また、思いのままの形に折り込むことも出来るのです。

人間には、本来、実現がむずかしい事、易しい事などという区別はないのです。

私の禅の師匠は、よく「へま草梵刹」という言葉を示して下さいました。

これは仏典からの言葉で、

ある時、お釈迦さまが、帝釈天という天人と散歩しておられました。すると、ほど良い広さの平地を見つけたのです。帝釈に、

『ここは、梵刹（寺、修行道場）を建てるのによい土地だね』と、おっしゃいますと、帝釈は、その野原に生えていた野草を一本ぬき取って、その地面に立てました。そして、お釈迦さまに、

『梵刹を建て終わりました』とお答えしたのです。

私の師匠は、よくその話を引用して、相対比較、自己限定からの離脱の大切さを説かれたものでした。

天人には、そんな難易や、遠近や、時間の長短などという区別はないのです。人間も本来天人で、あっちの世界から私たちはやって来たんですから難易、長短などというのは本当はないのです。

床の間に一本の花をたてます。あるいは、百階建てのビルをたてます。その二つの行為はいずれもたてる行為であって、難易などはありません。あるとすれば、それは人間が勝手に思い描いた自己限定のイメージの中にあるだけです。

いずれも相対を絶した、絶対的価値のある行為で、そう分かった上で、どちらのたてる行為を選択するかは、その人の自由なのです。

ぜひ、以上の話を参考に、人間本来の、天的、宇宙的能力を存分に発揮して下さい。

以上の話を要約して、呪文というか、スローガンの形にしておきましょう。目標への道ゆきが不安になってきたら、十回ほど称えて下さい。

世界は重いか、軽いか、

軽い。

どれほど軽い、

紙きれ一枚。

紙きれ一枚、どう折る、

思い通りに折る。

喜びを折る。

テレポートなどという現象を起こせる人がいるそうですが、そんな人は、目標設定と、現在の座標からの離脱を、ものの美事に決めることが出来る人なのでしょう。

私なんか、まだまだ、ジャンプがへたで、一度ジャンプして、しばらく飛んでもすぐ落地して止まってしまい、またジャンプして落ち、…、そのくりかえしですから、目標地点まで仲々時間がかかっています。

しかし、この時間をかけるという事が、どうやら地球での人生をおくる意義の一つのようですから、それもまた、へ楽しいからずや〜でやってゆ〜こうと思います。ゴムひもが張っている以上、いつの日か必ずたどり着くという事は分かっているのですから、心配はありません。

目標設定と、自己限定からのジャンプは、訓練によって、どんどん上手になってゆきますから、身近なところから実験して、成功体験を積み重ねることが大切です。

最後に、私の若い頃の実験訓練の一例を紹介してこの文を終えることにしましょう。

私がまだ大阪にいた頃ですが、私の自宅はある山の中腹にあって、駅から自宅まで坂を二十分ほど登った距離だったのです。

ある時、電車で家に帰ろうとしていましたが、突然はげしい雨が降り始めました。私は傘をもっていません。かばんの中には貴重な書類など入っていて濡らせるわけにはい

かないので困ってしまいました。

そこで、先ほどの話のように、目標設定法を試みることにしました。

まず、目標は「濡れずに帰宅すること」です。

『やれ、やれ、濡れずに良かった』と、貴重な書類をかばんから取り出している様子をイメージします。

次に、雨の様子をみますと、増々激しくなる様子です。『これは、僕のカじゃダメかな』

などという自己限定の気持ちが出てきますが、それを一つ、一つ否定して、自己の力を徹底的に信頼します。

雨は、次第に弱くなってきましたが、駅に到着しても、まだ降り続けていました。私は、『ああ、残念だけど、だめだったなあ。現在の自分の力はこの程度なのか』と、雨の中を歩きはじめた時、突然、私の横で車が停まって、ウインドウが碍いて、見知らぬ人が顔を出しました。

「山の方に行かれるんでしょう。雨の中大変だから、私もそっちの方へ行くから乗って行きませんか」と声がかかりました。

私は本当に不思議と感激に胸をいっぱいにして、自宅まで、まったく濡れることなく、到着することが出来たのです。

(註) ロバート・A・モンローの著者の邦訳は、私の知る限りでは三冊です。書かれた順に

『体外への旅』(学研)

『魂の体外旅行』(日本教文社)

『究極の旅』(日本教文社)

立花大敬(たちばな だいけい)さんの紹介

昭和23年大阪生まれ。
大阪大学にて生物工学を研究。
19歳(大学在学中)、禅に入門。
以来、曹洞、臨済宗の諸老師に指導を受けてきた。
42歳、伊勢神宮にて天命を知る。
この時期と前後

45歳で、進学校の高校教師となる。
48歳、再び「筆の御用」を開始し、《しあわせ通信》を毎月発行。
著書に「天界の禪者大いに語る」「悟」「禅」「禅の達人たち」
「しあわせ通信第1集～第10集」などがあります。
今回は「しあわせ通信第1集」の一番最初に掲載されていた、「人生飛行術」を紹介させて頂きました(^_^)